

平成21年 日本建築士会連合会賞 審査総評

作品審査委員長 阪田 誠造

今年度で私は、会員作品展・審査委員会委員長を卒業です。会員作品展と士会連合会賞の一体化後、応募作品数が急激に増加しましたが、経済環境の影響か、最近やや減少傾向が見えます。以前、私は士会連合会の賞の審査委員を務めたこともあります、松本陽一前委員長の許で10年以上、書類選考から現地審査に関わり、この2年間は委員長を務めました。

「会員作品展」は、会員による建築作品を広くご紹介していくとともに、会誌『建築士』のグラビアページの充実を図ることを目的に始まりました。「士会連合会賞」と一体化後、応募作品数が一挙に増え、賞に対する社会的評価への期待と審査の責任の重さを感じつつ、毎年の委員会は、書類選考から現地審査まで極めてハードスケジュールで、全委員が各地の候補作品の実態見聞を複数分担し「作品」を検証、社会的信頼に応える賞の選出に努力しています。

賞の決定会議での委員間の意見の相違は、全員の挙手で決定する、多数決の尊重が委員会の基盤にあります。「会員作品展」を基軸とする賞として、多くの会員に受賞の機会を与える想いと配慮が、暗黙の合意事項として委員会にあるように思います。会員からの応募は、現在士会連合会に直結していますが、「会員作品展」と「士会連合会賞」の真の一体化のための提案、以下の私の夢を、最後の総評とさせていただくことをお許しください。

「会員作品展」の名称には、会員親睦交流の場づくり、機会づくりの意図を連想します。士会連合会を支える各都道府県の建築士会は、会員の顔がより見える関係に存在します。各建築士会が「会員作品展」の場に相応しいでしょう。各建築士会中「会員作品展」から「士会連合会賞」の応募作品が推薦されれば、「会員作品展」と「士会連合会賞」の一体化が完成します。連合会賞応募の前の段階に、各建築士会の「会員作品展」が、会員と作品の交流の場として機能

し、「会員作品展」からの推薦作品を、現在の士会連合会賞選考委員会が、賞の選定審査を行う手順が望ましいと、私は想うのです。首都集中の現象は、建築設計分野も同じ、東京建築士会の会員が多く候補作品に関係し、受賞することが多い一方、各地の新進建築家の作品（主として住宅など）が士会連合会賞を獲得する期待や、新しい作品の発掘と顕彰が、士会連合会賞の大切な役割の一つであろうかと考えます。

現在、会誌の作品掲載に、全提出図と写真の掲載（会員作品展）は不可能のため、審査委員会が図と写真を選定しますが、作者の狙いや意図に関係なく、印刷効果と判り易さを選定基準にするため、作者からのご不満もあるかと思われます。

会員の作品が全国から直接士会連合会に集中する、現在の全応募作品の最初の審査は、厚い提出資料の長い列からの選定作業ですが、多種多様の作品を詳しく見る余裕はなく、毎年、時間の経過に追われ、斜め読みと写真の一瞥で○×を決めなければならない、超ハードな作業となっています。この前段階に、各建築士会で「会員作品展」が開催され、「連合会賞応募作品」が推薦されれば、第一段階の選定作業は充実した選定が確実にでき、これまで見落としがあるかも知れない、未知の作者の発掘の期待を、私は想うのです。

会員親睦の場と機会をつくる「会員作品展」が各建築士会に機能し、その場から「士会連合会賞」への応募作品が推薦され、選考審査委員会が賞の選定審査を行えば、「会員作品展」と「士会連合会賞」の一体化の実現となり、賞選定委員会の作業も、より充実した選定を結実させ得るのではないかという私の夢を、委員長卒業の機会に述べさせていただくことにしました。

審査委員の皆様、士会連合会事務局の皆様、いろいろお世話になりましたこと、心から感謝いたします。ありがとうございました。